

県立精神医療センターは、老朽化及び個室化対応等の課題を抱え、早期の建替えが喫緊の課題。県立病院機構及び県は10年来、名取市を中心に建替え用地を検討してきた。

これまでの候補地検討

1 がんセンター西側山林

1 検討経緯

一部地権者の同意を得ることができず、H28年8月の県議会（環境保健福祉委員会）において、がんセンター西側山林を断念し、新たな候補地を検討する旨報告

2 当該地での整備に係る懸念・断念の要因

① 地権者の同意を得られていない。

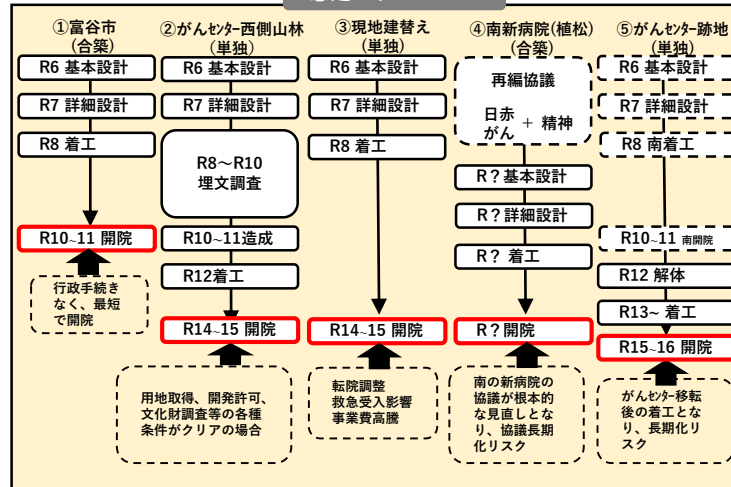
※令和2年6月、令和5年2月に地権者の一部から用地取得の要望書が提出されているが、元の用地（開発区域）と別（一部重複）であること、かつ、一部地権者の同意しか確認されていない。

② ①がクリアであっても、病院整備に必要な工程、多岐にわたる許認可手続き、埋蔵文化財調査等の影響により、開院スケジュールの長期化及び事業の不確実性が高い。

（主な調整手続き）

事業認定：土地収用法に基づき公共のために土地を収用することができる事業であることを認定する行政処分
 一認定により、用地を譲渡した地権者は譲渡所得の特別控除を受けることが可能
 農振除外：農用地以外の用途で開発することが困難な農業振興地域から除外する行政処分
 開発許可：都市計画法に基づく建築・建設に伴う土地の区画形質の変更に対する行政処分
 市街化区域編入：開発するためのハードルが高い市街化調整区域から、開発が比較的容易となる市街化区域へ編入すること

想定スケジュール



2 現精神医療センター現地

1 検討経緯 がんセンター西側山林の目途が立たないことから、現地建替えについて検討

2 現地建替えの懸念・断念の要因

① 事業期間の長期化：敷地内の建替えにより、事業期間が長期にわたり、療養環境の悪化・救急対応に支障・患者の転院対応必要

② 仮設病院の建設による課題：グラウンドに仮設病棟を設置する場合、医療法上分院扱いとなり、スタッフの配置等病院運営が困難

3 その他

その他市内数か所を検討も、行政手続き、用地取得の確実性、用地面積等の様々な理由により、適地確保に至っていない。

4 南の新病院（植松）

➢ 南の新病院（日赤、がんセンター）の統合協議の見直しとなり、開院スケジュールの長期化のおそれ

5 がんセンター跡地

➢ がんセンター移転後の整備となるため、開院スケジュールの長期化のおそれ

県の考え

- ① 病院機構及び県は、これまで名取市内を中心に精神医療センターの移転先の検討を行ってきたが、事業実施が確実な用地の確保には至っていない。
 - ② 富谷市から同市明石台用地（造成済み）の確保、提供について申し出があった。
 - ③ 労働者健康安全機構の理解を得て、救急医療や災害医療とともに、身体合併症の対応を含めた精神医療の課題解決を目指す方向性を検討しているところ。
- ⇒ 県としては、病院整備の確実性が高い富谷市明石台において、精神医療センターの移転整備を進めたい。

2 精神医療センターの移転への県の考え

- 県立病院機構、県は、これまで10年以上にわたり、名取市内を中心に精神医療センター移転用地の確保に取り組んできたが、実現できていない。
- そのため、富谷市への移転建替を最も現実的な方針として検討を進めているが、県南への影響への対応を講じる必要があるため、移転による影響等について、関係団体・者にヒアリング・意見交換を実施している。

ヒアリング・意見交換におけるご意見

1 現在のセンターの役割

〈入院〉

- ① 長年県の急性期の基幹病院として、措置入院をはじめとした重症者（地元の医療機関、クリニックに紹介困難な患者）を受入
- ② 手厚いマンパワー・体制により、グループホーム等地域の社会資源と連携
- ③ 患者が医療につながりやすい環境をセンター自らが提供することで、精神科救急の全県的な対応に加え、県南地域を中心とした精神科医療の中核的役割を發揮

〈一般外来〉

- ① 仙台市太白区以南の患者が中心
- ② 重症者が一定数存在。元の地域に戻れず、センター周辺から通院する者もいる。
- ③ 各地域では、新患予約が数か月待ちも多いが、センターは緊急時の受入にも対応している。
- ④ 医師との信頼関係、環境の維持が症状の安定に寄与。他方、医師の変更自体は必ずしも珍しいものではない。
- ⑤ 急性増悪の際、入院できる環境への安心感がセンターの役割として重要である。

〈デイケア・訪問看護〉

- ① センターを退院した重症者を、訪問看護やデイケアを活用しながら、行政や民間就労支援サービス等と連携し、徐々に地域移行を進めている。
- ② センターやOBが運営する訪看事業者は、患者入院時からの介入により、きめ細かな対応を実施している。
- ③ デイケアは、センターが体制を活かした個別プログラムも実施、重症者に対応している。
- ④ デイケア登録者のうち、半数程度は、民間就労支援サービスを利用している。

2 移転による県南への影響

〈一般外来〉

- ① センターに通院する県南の患者は、富谷市までの通院は困難
- ② 他の民間病院でも新規患者予約が数か月待ちが恒常化

〈デイケア〉

- ① デイケア利用者のうち重症者は、現時点において民間移行は困難

〈訪問看護〉

- ① センターが実施する訪問看護のうち、重症者については、デイケア同様、現時点において移行は困難
- ② 他の民間事業者においても、センターの患者の利用実績はあるが、受け皿としては十分ではない。

3 県南で想定される影響への対策

- ① 南の外来機能の患者の急性増悪の対応について、入院施設へのスムーズな接続及び搬送手段の確保が必要ではないか
- ② 南の外来機能へのセンターの医師の派遣、往診すべき

4 移転先への影響

- ① 富谷市周辺にグループホーム等社会資源が不足・早期の確保が困難のおそれ
- ② 現状のままでは、入院患者(重症者)の地域移行に支障をきたすおそれ
- ③ 周辺民間病院への影響懸念

県としての対応についての考え方

1 南の外来機能の設置

- ① 南の新病院に外来機能を確保
 - ・県南の患者が富谷に通院する必要のない環境整備
 - ・そのための運営形態については、今後検討
- ② 重症者に対応する体制
 - ・富谷の精神医療センター医師等のマンパワーとの連携が可能な体制を今後検討
- ③ デイケア・訪問看護の運営
 - ・民間への移行の検討と機能の維持・充実を目指し、体制を構築
 - ・民間事業者とノウハウを共有し、裾野の拡大に向けた取組

外来患者の急性増悪時の入院対応
入院調整機能の確保

2 富谷市への移転

- ① 精神科救急の全県的な対応
 - ・24時間救急の継続
 - ・新たな精神医療センターは、通年夜間等、他の民間病院が担わない部分を中心に対応
- ② 患者の地域移行につながる病院機能確保
 - ・患者の早期退院や地域移行推進の観点からデイケア・訪問看護機能を確保
 - ※訪問看護について民間への移行を推進
 - ・社会資源（グループホーム等）整備について富谷市等周辺市町村と連携、支援の実施

〈体制イメージ〉

